

■ 会議録

◇件 名 第2回 つるおかコンポスト利用促進検討委員会

◇日 時 令和7年5月27日（火） 午前 10時00分 から
午前 11時40分 まで

◇場 所 つるおかエコファイア 3階研修室

◇出席者 別紙のとおり

◇記録者 下水道課浄化センター 所長補佐 奥井洋

1. 開会（寒河江所長）、委嘱状の配布（机上配付）
2. 委員長挨拶（阿部委員長）
3. 自己紹介（各委員）
4. 報告
 - （1）新汚泥資源化施設の進捗状況について（奥井補佐）
 - （2）下水汚泥コンポストペレット化実証の進捗状況について（奥井補佐）
 - （3）「マグマソイル」菌体りん酸肥料の概要について（野間部長）

佐々木委員 2種の方が多く販売されているが、利用者はふるい分けを必要としないのか。

野間部長 大口購入者はふるい分けを必要としない。新しい肥料を作る種肥料に使っている。

阿部委員長 差別化を図っているのか。

野間部長 1種と2種の価格差は製造コストの違い。大口購入者、一般購入者ともに同じ価格で販売している。

渡部副委員長 鹿児島市は畜産が盛んだが、畜産堆肥から汚泥肥料に切り替わっているか。

野間部長 切り替わっておらず、課題となっている。

神尾委員代理 マグマソイルは園芸作物や水稻などには利用されているか。JA 鶴岡管内ではだだちや豆の栽培等で利用されている。

野間部長 主にサトウキビの栽培に利用されている。なお、水稻やかぼちゃなどの作物について、サツマソイルが生育に与える影響の試験研究を行っている。

岡部委員 肥料の価格をどのように設定しているのか。

野間部長 手元に資料は無いが、需給のバランスがとれず、価格を下げて販売した経緯がある。

岡部委員 建設資材にも使用しているとのことだが、販売しているのか。

野間部長 長崎県内の企業に（運搬処分を）委託し、焼却した製品を路盤材などの建設資材として有効利用している。

水戸部委員代理 サトウキビはどのような使われ方をしているのか。製品にはマグマソイルを使用していると表示しているか。

野間部長 主に黒糖に加工している。マグマソイルを使用しているとの表示等はしていない。

五十嵐委員 菌体りん酸肥料に登録することで販路拡大に期待している。マグマソイルとして全量販売せずに、なぜサツマソイルを残しているのか。

野間部長 汚泥肥料として登録されたものがサツマソイル、菌体りん酸肥料として登録されたものマグマソイルとなっている。大口購入者の方は、サツマソイルでも安全性を確保されているのが分かっているので、サツマソイルの販売が多い。

阿部委員長 9 ページで報告のあった農家からの意見集約についてどのような意見があったのか、散布試験をいつ頃するのかをお聞きしたい。

松浦主任 JA 鶴岡さんから紹介いただいた方、叶野委員から紹介いただいた方など9名の方に需要調査を行い、「散布作業では手間が省ける」「コスト縮減が図れる」「フレコンバックではブロードキャスターに入れにくい。15kg～18kgの袋詰めが必要」「粒形4～5mm程度であれば問題ない」「肥効成分が分からないので使いにくい」との意見をいただいた。肥効成分についてはBISTRO下水道と合わせて今年度検証する。ペレットの保管性についても引き続き検証する。

5. 議事

(1) つるおかコンポストの情報発信や周知方法について（奥井補佐）

叶野委員 去年はつるおかコンポストを150本使用した。費用を計算したところ、一昨年よりも300万円ほど肥料代が減っていた。今までは硫安を使っていたが、今年は鶏糞、つるおかコンポスト、庄内食肉公社のコンポストを使っている。つるおかコンポストはフレコンバッグの底が細く、マニュアルスプレッダーに落すときに詰まって全然出てこないのを改善していただきたい。山形大学が作業した時も同じだったとのこと。食肉公社のフレコンは使い捨てのため下を切って落とすことが可能で、半分以下の時間で済むので作業コストもすごく良い。使用後は食肉公社で回収するので、処分費も無い。

ペレットは天気の関係でまだ使っていない。何町歩も振れるようにマニュアルスプレッダーも大きくしており、現状のコンポストの方が量を振れるので早くて使いやすい。

つるおかコンポストの方はリン酸が多いが、食肉公社の方は窒素が多いので、2種類をまぜて肥料は極力使わないという考えでやっている。コンポストは有機農業とはいえないとのことだが、減化学肥料栽培というような形で、積極的に使っていけるようだといい。今まで使ってきた意見としては、土壌改良材ではあるが、もはや肥料として振っている。足りない部分は化学肥料で補う。

阿部委員長 規模に関わらず、様々な方がいるので、ある程度類型化してPRする必要がある。作業

効率が上がるというメリットを出していければ、使う人が増えるかと思う。

水戸部委員代理 生産量が3倍に増えるということもあり、土地利用型作物に使っていく必要がある。つるおかコンポストは、肥料的な面ではほぼ他の肥料と遜色がなく、化成肥料の代わりになると私は思っている。耕畜連携という言葉があるが、このコンポストを使って農作物を作るという地域内循環はいい取組みになると思っている。

ただ、最終的に農作物を買ってもらわないとサイクルが回らないため、消費者向けにPRしなければならない。重金属に対するイメージは容易に払拭できるものではなく、理念は立派なものであっても、それだけで消費者の購買に繋げるのは難しい。農作物を買ってもらうためには、例えばポイントが溜まって商品券と交換できる、といった買った人のメリットになる仕組みを具体的に提示する必要がある。コンポストを使った農作物が消費者に買われていけば、おのずと生産者の間でも広まっていく。

庄司委員 庄内たがわ管内では、羽黒の堆肥センターで「みのるくん」という堆肥を製造販売している。これがほぼ100%庄内たがわ管内で販売している状況のため、コンポストについては認知度が低く、周知方法が課題となっている。

神尾委員代理 こつこつと鶴岡での消費から始め、伝播して大きくなっていくように進めるべき。使用している品目は加工品が多いが、生食となるとバイヤーや店舗の考え方が全く異なり、用途や商品によっても変わる。特にトマトやキュウリは茹でたりもしない。加工品であれば1次2次加工で重金属が減少していくと思われるが、生食では基準値内であってもイメージが問題になる。そのため、畜産堆肥や腐食酸肥料の方が綺麗と言われた経緯があり、大々的に使っているかということ、実はそうでもない。

イメージとしては、1次2次加工を加える品目で、かつ大規模面積で栽培するものに使っていく。あるいは、生産量が3倍となるため、スケールメリットで安価になるという方向性。1kgあたり5円が2円や1円になれば、安く大規模面積で散布できる。

佐々木委員 神尾委員代理のお話に納得した。使用量を3倍に増やすという視点では、使う方や買う方から考えても生食ではなく加工。しかも、大規模面積で栽培する品目に使っていくというのが、使用量を増やす方法として現実的。そうすると、先程のフレコンの形状の問題が非常に重要となる。

流通方法は、JAを通した農家向け、ホームセンターを通した市民向け、無償提供の3種類かと思っていたが、大量購入する方はコンポストセンターから直接購入している。売り先や渡し先によってPRが変わる。

渡部副委員長 作った作物が消費者に選ばれるようになるからコンポストを使うのか、それとも生産コストが下がるから使うのか、その見極めが大事かと思う。購入者が増えるからコンポストを使うという流れにするには、消費者の意識を変えるという非常に大きなハードル

がある。印をつけて売り、プレミアムで高く売る、あるいは選んで買ってもらうことを狙うという考えもあるが、短期間でそこまで目指すには相当努力とコストが必要となる。ポイントに対して金銭的に還元すると、市のコストが上がることになる。それを受け入れるのか、いつまで続けられるのか、という議論にもなり、プレミアムの間は良いが、終わった瞬間に買わなくなるということも怖い。

新コンポストセンターの生産量であっても、全員が使える量があるわけではない。特定の生産者だけ使えるものを作るというのは市の事業として良くないのかもしれないが、最初は使ってくれる生産者にある程度目安をつけて、さばいていくことも必要。

阿部委員長 PRのどこに重きを置くべきか、アドバイザーの方からご指導いただきたい。

島田氏 重金属を気にしている方が多いことに驚いた。嫌忌している人は過去の経験から汚泥肥料は使いたくないという思いが強いが、若い農家の方は意識せずに使っている。肥料に詳しい東京農業大学名誉教授の後藤先生によると、最近では下水道の重金属が減っていて、逆に化学肥料の方が高くなっている傾向にあり、現状では重金属リスクの差はほとんどないとのこと。

1,500～1,600トンであれば、大規模農家10～20戸程度で全てはける。大規模農家の方はコスト意識が強く、大量に安定的に安く使用できるのであれば、積極的に使いたいという方も多い。化学肥料を減らすことができれば、都内のスーパーでは特別栽培や減化学肥料の野菜として通常よりも2～3割高い値段で販売されており、下水道だからという意識は少なくなっている。下水道資源を循環させると、その地域で何億円という経済効果をもたらす。地域の経済循環にも貢献しているということで農家の方にポイントを与えとか、メリットがある制度を構築していくのも1つの方法。

野間部長 鹿児島市では肥料成分や重金属の測定結果をホームページ等に掲載し、各種イベントや市民農園への無償提供を行っている。鹿児島はお茶処であることから、お茶の生産者の方に直接PRしている。使ってみたいという意見はあるが、実現には、まだ至っていない。これらのPRを行っているが、販売を増やすところまでは至っていない。

阿部委員長 事務局は作った原案をしっかりとった上で、皆さんからの意見を踏まえて広くPRすること。叶野委員からは作業効率が良いようにとの提案があった。様々な課題があるので、優先順位を検討しながら実施していただきたい。

牛の放牧をやっている月山畜産振興公社から、牧場の草地改良では肥料が強くていけないので、コンポストを使いたいというお話があった。こういったところで使われるのか情報収集しながらPRすることが必要。